

ロックウェル推薦図書 2015年10月
『楽園のカンヴァス』原田マハ

毎年6月に全国高校入試問題集が届きます。今年の国語・小説の出典で目立ったのは原田マハさんでした。私は彼女の作品を読んだことがなく、入試出題作品は入手しにくいものが多かったので、代表作の一つである『楽園のカンヴァス』を紹介します。

美術小説

原田さんはもとも美術学芸員で本作品には現代美術に関する豊富な知識が盛り込まれています。文庫版の解説は高階秀爾（たかしな・しゅうじ）。美術評論家で大原美術館の館長です。その文章は新潟県公立高校筆答検査B例題で出題されました。

絵画の真贋ミステリー

ニューヨーク近代美術館(Museum of Modern Art: MoMA モーマ)のキュレーター(学芸員)であるティムのもとに、伝説のコレクターとして知られるコンラート・パイラーから招待状が届きます。彼の所有しているルソーの作品が本物であるかどうか鑑定を極秘に依頼する内容でした。スイスのバーゼルにあるパイラー邸に着くとそこにはもう一人、新進のルソー研究家オリエ・ハヤカワもいました。高齢のパイラーは自分に納得のいく鑑定・講評をした方に作品を譲り渡すと言います。

そこで二人が見たのは、MoMa に展示されているルソーの「夢」とそっくりの「夢を見た」という

作品でした。どうみてもルソーの真筆です。

やがて、鑑定を進めるティムの周りには怪しげな人物が次々と現れます。「夢を見た」の下には、カンヴァスも買えないほど困窮したルソーに、ルソーを敬愛するピカソが古カンヴァスとして与えた作品が隠れているらしいのです。

もし、「夢を見た」は偽作であると鑑定されれば削り取られて、未確認のピカソの作品が現れるかもしれない。途方もない金額で取引されるでしょう。「夢を見た」は本物なのか？ピカソの作品は存在するのか？



『楽園のカンヴァス』

原田マハ 新潮文庫 724 円(税込)

絵は MoMa 展示 アンリ・ルソー「夢」

三部構成

この小説は3つの時代の物語が入れ子構造になっています。

① 二〇〇〇年

不本意な妊娠で故郷岡山に戻り大原美術館で監視員として働く早川織絵が、老母、混血の少女とともにひっそりと暮らしている。そこにティムからオフアーがもたらされる。

② 一九八三年

先に紹介した部分

③ 一九〇八年前後

パイラー邸で解説を指示された古書に描かれた二〇世紀初頭のパリ。貧苦にあえぎながら芸術に情熱を燃やす晩年のルソーと、若きピカソらによる芸術革新の嵐が描かれる。

人物描写

この小説には荒削りなところがあります。

パイラーは謎に包まれた伝説のコレクターという設定ですが、彼がバーゼル美術館を訪れると職員一堂飛び出して迎えます。どこが謎だ！テレビの二時間サスペンス並みの部分も多いでしょう。

だが、それでも文句なしにおもしろい。そして人物描写がすばらしい。

②の場面の織絵の美しさは行間から匂い立つようです。③の場面に出てくる「洗濯女のヤドヴィガ」の魅力も読者の心を驚つかみにするでしょう。

ティムの誠実さには心が洗われます。

美術品を金儲けの対象とする勢力から、ルソーを守るため知恵を絞ります。そして織絵へのプラトニックな愛。ハッピーエンドですから安心して読んでください（微笑）。

ロックウェル新大駅前教室 長谷川玲